

不登校体験者の
話を聴く会

不登校14万人時代 当事者の語りの中に見える光明

文部科学省の調査によると、昨年度の全国の不登校児童生徒の数は、14万4000人を超え前年度より増加しています。多くの子どもや、そのご家庭の方が、学校に行きにくさを感じ、これからの進路についてなど、不安に思われていると思います。

19年の歴史をもつフリースクールビーンズふくしま。多くの子どもたちが、この安心できる地域の居場所で、人と繋がり、生きるための学びを得てきました。そのフリースクールの卒業生など、不登校を体験し、その後自分の進路を進んでいった3名の体験談を聞いてもらい、多くの方が抱える不登校への不安を、少しでも安心に変えて頂くため、「不登校体験者の話を聴く会」を開催いたしました。

講演当日、会場には、70名以上の皆様に参加してくださいました。不登校の子どものお父さんやお母さん、学校の先生をはじめ教育関係者の皆様、関係機関の皆様…皆さんそれぞれに、体験者の話に聞き入る姿、体験者の言葉を書き留める姿、「親も子どもに過干渉になりすぎずに、自分の人生を楽しんで」という言葉に、涙ぐむ親御さんの姿、お話が終わって降壇した体験者に駆け寄り声をかける姿…その様子から、参加していただいた多くの方の、何かしらの希望になったのだと思いました。

「不登校になりたくてなったわけじゃない、子どもを責めず、今は行けないということを認めてほしい。」「子どもを信じてほしい」そんな、体験者でしか語ることができない貴重な話

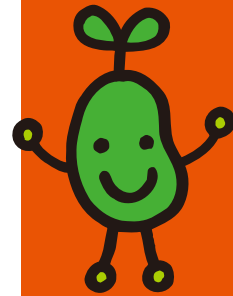
に、参加した方からは次のような感想をいただきました。

- 不登校は問題ではなく、現象だという言葉が印象的だった。
- 自分の素が出せる、安心した場所が1か所でもあると、1人1人もっと幸せになるなと感じた。
- 学校に行く、行かないの選択肢だけではないと改めて感じた。
- 十人十色、「そのままのあなたでいいんだよ」と受け止める器を親が持つこと、それが子どもの安心と自信につながっていくのかなと。
- 「親だけで頑張らないで周りを頼って」と聞いて、私自身、やってきたことに間違いはなかったかとも思えてうれしかったです。

講演会にご参加いただいた皆様、ご講演頂いた3名の皆様、本当にありがとうございました。



ビーンズ 通信 vol.90



●発行日/2018年11月10日

●発行元

特定非営利活動法人

ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F

TEL&FAX 024-563-6255

URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

こころの相談室のご案内

現在、こころの相談室は25%の方が親で、32%の方は親御さんのみでご利用されています。親御さんのみのカウンセリングでも、子どもたちは気持ちの変化を敏感にキャッチし、少しずつ変化をしていきます。「子どもが変わらなきゃ」を一旦横

親からつながる心理カウンセリング

に置いて、まずは親御さんからカウンセリングを始めてみませんか。親御さん向けのワークショップも実施しています。詳しくはお電話にてお問い合わせください。

●開所日時/火～土曜日

10:00～18:00

(祝祭日及び年末年始除く)

●相談料/有料(予約制)

TEL・FAX 024-563-6255

[HP] <http://kokoro.beans-fukushima.or.jp/>

ビーンズふくしまのチャレンジ!

すきまcafé

高校生に 「きっかけ」と 「つながり」が 生まれる場所を

すきまcaféは、毎週木曜日の夕方に開催している高校生向けのフリースペースです。「ふらっと来てくつろげる場」、「無料のドリンク」、「一緒に遊んだり、話したり、悩みの相談に乗ってくれる大人」によって、家でも学校でもない第3の居場所づくりをしています。今年6月のオープンから10月まで、延べ50名の高校生が立ち寄ってくれて、勉強したり、友達とおしゃべりしたり、スタッフと交流したりと、過ごし方は様々です。

この場所は、これまでの活動から見てきた、教育と社会的自立の狭間にいる高校生の課題から生まれました。不安定な家庭環境に育ち、高校に進学しても1年以内に中退してしまう子。周囲から十分なサポートが得られないまま卒業し、その後の社会的自立が難しくなっている若者。また、先生とも接点がなかなか持てず、ひとりひとりの背景や状況を把握するのが難しくなり、適切な支援を受けられない課題もあります。こうした中で昨年、郡山市内に通う高校生向けにアンケートを行ったところ、「行きたい時

に行けて、自由に過ごし、相談ができる場所が欲しい」という声がとても多く寄せられました。中退の予防や、社会的自立に向けた課題を抱える高校生をサポートするため、地域の中で自分らしく過ごし、時には悩みを相談できる居場所づくりを進めてきました。

高校生の「気軽に来れて楽しく過ごせた」「スタッフさんとお話できてすっきりした」といった声から、居心地のよい場になっているのを実感しています。最近では「将来、製菓の専門学校に通いたいから、ここでお菓子作りをしたい」と提案があり、一緒に実現し、作ったものを他の子たちに振る舞うといった交流もここで生まれています。一方で、学校生活や将来について、突然そっと悩みをこぼすこともあります。人に言いにくい、相談しにくいことは誰しもあると思います。親と子、先生と生徒といった「義務」「立場」「背景」を越えた関係性の中で、悩みをつぶやき、それを受け止めてくれる場所が必要であると感じています。高校生が「私の居場所」と感じられ、彼らと社会との接点が生まれる拠点となる場があたり前にある社会をこれからも目指していきます。



子ども食堂 よいだキッチン



スタート!

2018年7月25日、福島市の吉井田学習センターを会場として子ども食堂“よいだキッチン”がスタートしました。子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まって間もない時期に30名以上の子どもたちが宿題を持って、どんなことをするだろうと興味津々でよいだキッチンに集まってくれました。勉強、遊び、食事（その日のメニューはみんな大好きなカレー）を通して、初めて会った子どもたちもいつの間にか仲良くなり、あっという間に笑い声が絶えない空間に。帰り際には、「新しいお友達ができたよー!」「次のよいだキッチンはいつ?絶対来るからね!」と。多くの人々が顔の見える関係になった瞬間でした。

活動のきっかけ

子ども・若者支援に関わっている中で、「子どもたちに家庭や学校以外の居場所ができないだろうか」「若者がもっと社会参画できる機会はないだろうか」「大人も地域も多くの人々が繋がりあって子どもたち若者たちを支える場ができないだろうか」と考えたのが出発点でした。子どもたちにとっては安全・安心な居場所を生み出しながら、若者や大人たちは居場所を支え、繋がりあっていく。民生委



子どもたち若者たちが、自分らしく自分の人生を歩んでいくために
「地域の中にどんなしくみがあったら良いのか」を考えて、今年度取り組んでいる事業です。

員さん、学生ボランティアさん、福島西ライオンズクラブの皆様、企業様、農家の皆様、吉井田学習センター様など多くの方々と共に活動していますが、回数を重ねていくごとに子ども同多多くの方々と共に活動していますが、回数を重ねていくごとに子ども同士はもちろんのこと、子どもと地域の人たち、保護者とスタッフなど関係性がどんどん深まっていくのが実感できます。

これからの よしいだキッチン

よしいだキッチンはこれからも、子どもはもちろん地域の人々もふらっと立ち寄れる地域の居場所であり、この場をきっかけとして多くの人たちが繋がりあい、子どもたちをしっかりと支えていける地域を作っていきたいと考えています。

●開催日程やボランティア等
よしいだキッチンに関するお問い合わせは…
080-4184-9438(担当:江藤)



プレプレ (プレユースプレイス)

ひきこもりからの一歩 プレプレの取り組み

ひきこもり状態にあるご本人やご家族の状況に合わせて、相談や情報の提供を行い、地域の関係機関と協力し合いながらサポートをしている「ひきこもり支援センター」。今年度で5年目を迎える当センターでは1対1の相談から、次に繋がるためのステップとなるしくみについて検討してきました。そして今年度より当事者支援としてチャレンジしているのが「プレプレ」です。プレプレは安心して人に慣れる経験を重ねていくことができる場所です。

プレプレはひきこもり支援センターでの個別相談につながっている方の中で「人と関わる経験」をしたいけれど大人数はまだ無理という当事者の声から始まりました。

何かを始めようにもはじめの一歩を踏み出すことは容易なことではありません。プレプレではその一歩を踏み出すお手伝いができればと思っています。プレプレは「人に慣れる経験を重ねることができる場所」とうたっています。大人数での活動ではなく、2~5人程度の小人数での活動から少しずつ人に慣れる経験を得られるプログラムになっています。また、スタッフも参加者としてプログラムに参加し人と関わる経験をフォローできる場になっているので安心

して参加できます。プログラムはおしゃべりや創作活動などを通して参加者同士の交流を図ったり、みんなで外出したりするなど様々な内容ですが、疲れたら休むなど無理のない内容となっており、人や場に慣れる経験につながっています。また、プレプレが始まって半年になる現在は参加されている方と話し合っ

て決めた自主企画を実施しています。みんなで話し合うことができ、たくさんのやりたいことが出され、工場見学や紅葉狩りを楽しみました。他の若者プログラムに参加する方も出てきています。話したいことが話せる、やりたいことがみんなとできる経験は大きく、次の活動にもつながります。少人数でゆっくり、丁寧に関わる場が一歩踏み出す支えになっているようです。家でもない学校でもない職場でもない若者のための第三の場所のひとつになればと思っています。

- 開所日時/第2・第4水曜日
10:00~12:00
- 開催場所/福島県青少年会館
- 対象/ひきこもり支援センターの面談を受けている方



『貧困撲滅のための国際デー』寄付キャンペーン

「子どもの貧困の連鎖を断ち切るために」ご協力をお願いします。

毎年10月17日は「貧困撲滅のための国際デー」にあたります。ビーンズふくしまでは、日本国内での子どもの貧困の連鎖を断ち切るため、更なる支援の充実を目指し、現在寄付キャンペーンを実施しています。

日本では、7人に1人が「貧困の中で生きる子どもたち」とであるとされています。その背景には、親が発達障がいや知的障がい・病気等により未就労であったり、過剰服薬や薬物依存により自殺企図を繰り返していたり、交際相手と一緒に子どもに虐待を繰り返している事例もあります。劣悪な環境で生活する子どもたちの多くは、困りごとを認識する力、周りに助けを求める力、将来に希望を持って生きることができる力が低下した状態にあります。私たちは、これらの生きる力が低下した子どもたちへ、家庭訪問型の支援を通した様々な活動

を行っています。2012年よりこれまで70名の子どもたちに寄り添い続け、そのうち約20名が自立に向けた一歩を自らの力で歩み始めています。

「貧困の連鎖」を断ち切り、1人でも多くの子どもたちが、今と未来に希望を持てるよう、ぜひ皆さまのお力添えをいただければ幸いです。



あなたの
寄付で
できること

例えば

3,000円で…「家庭訪問による個別支援を実施できます」
5,000円で…「自立に向けた講座・体験等が提供できます」
10,000円で…「集団の中で子どもたちが学ぶ環境をつくれます」

期間：2018年10月9日～11月30日

特設サイトよりクレジット決済も可能です。

<https://child-poverty.beans-fukushima.or.jp/>

【銀行振込み】 東邦銀行 本店営業部 普通口座 3692401

口座名義：特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事 若月ちよ

【郵便振込み】 口座番号：02240-3-38521 加入者名：NPO法人ビーンズふくしま

※通信欄：子どもの貧困寄付キャンペーン(寄付の用途をご記入ください)



もうよろしく！

ビーンズの新しい仲間です！

趣味は食べ歩き、特技は笑うこと。子どもから元気をもらっています。

ヨガポーズで体幹を鍛えながら汗をかくのが好きです。

福島県子どもの
学習支援事業(県北)
わたなべ ゆかり
渡邊由香



みんなの家
セカンド
たかはし あい
高橋 愛



アンケートのお願い

ビーンズ通信をいつもお読みいただき、ありがとうございます。今回の通信で90号となり、2000年に初号を発行してから18年めを迎えております。ビーンズふくしまの活動を皆さまに知っていただきたく、お届けしてまいりましたが、このたび、「より伝わりやすい通信を創りたい」という思いから、皆さまからのご意見・ご感想をいただきたいと思っております。お手数をおかけしますが、以下のいずれかの方法にてご協力をお願い申し上げます。

●FAX→同封のアンケート用紙にご記入の上、送信してください。

●メール→質問事項へのお答えを本文にお書きになり送信してください。

info@beans-fukushima.or.jp



●ビーンズふくしまのホームページ こちらへアクセス → <http://www.beans-fukushima.or.jp/>